

## <ご挨拶>

一般社団法人日本分析機器工業会  
会長 栗原権右衛門

長い間デフレ下にあった日本経済もアベノミクス発動以降、円安株高基調が定着し、元気を取り戻しつつあるようです。分析機器産業もリーマンショック後の一時期、後退を余儀なくされましたが、ここにきてまた成長が見込まれるようになってきました。もともと分析機器は科学技術や製造業の発展には欠かせないツールであるため、景気の変動に大きく左右されにくく、特に近年著しい新興国の経済発展もあり、右肩上がりの成長を遂げてきました。日本の一般消費財産業が新興国との競争で苦境に立たされ、BtoB産業へのシフトの重要性が叫ばれているなか、分析機器産業は極めて恵まれたポジションにあると言えますでしょう。

日本分析機器工業会(JAIMA)は1960年に任意団体として発足し、2013年には一般社団法人に改組され今年で設立55周年を迎えました。各委員会の活動も極めて活発であり、順調に組織としても運営されております。このような中、後任として当工業会の会長を拝命することになりましたが、服部前会長が築かれた路線を継承しながら、更なるJAIMAの発展に貢献したいと存じています。

まずJAIMA最大のイベントであります幕張での展示会ですが、従来日本科学機器協会との合同展として開催されてきましたが、2012年より名称も新たにJASISとして再スタートしました。新しい試みとして分析機器技術の先端診断分野への展開を目論んだ「先端診断イノベーションゾーン」にはJAIMA会員各社のみならず多くの企業に参加いただき、注目を集めています。またグローバル化が推進され、アジアのハブ展として確固たる地位を築きあげつつあり、昨今の国内外の展示会が規模の縮小や入場者が減少傾向にある中、来場者も増え去年は約24000人に達しました。今後、セミナーの開催等様々な施策を通じて、アジアからの来場者を更に増やしていきたいと考えています。

昨今の分析機器市場全体の傾向として機器だけでなく関連の応用技術、つまり優れたソリューションが求められるようになって来ました。JAIMAはこれに応えるべく早くからJASISやピッツコンなどで各種の技術説明会やコンファレンスを開催してまいりました。去年は関西地区でも新技術説明会を開催致しましたが、一層のソフト化を推進してまいりたいと考えています。

展示会以外にもアジアや欧米の団体との交流を促進し、日本の分析機器産業の強みを世界に発信していきたいと考えております。最近も経済産業省様の御指導のもと、WTO/EGO交渉においてスイスのジュネーブでプレゼンを実施しましたが、これもこの流れに沿ったものであります。また、会員のサービス向上を更に高めるため、今年度より新たに「JAIMA市場管理システム」を導入し、分析機器のより正確な統計数字の提供を図る他、従来からのホームページの充実、メルマガの配信など様々なサービスの強化に努めてまいります。

イノベーションの重要性がいろいろなところで指摘されている昨今、会員各社の連携や産学官連携を更に進め、JAIMAの発展と日本の分析機器産業の発展に微力ながら貢献致したく、皆様のご支援とご協力を切にお願い申し上げます。